

内外水統合の多段階浸水想定図・ 水害リスクマップについて

令和8年2月18日

香川河川国道事務所

内外水統合の多段階浸水想定図・水害リスクマップ



国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

〈同時記者発表〉

高松サポート記者クラブ 丸亀市記者クラブ
 普通寺市記者クラブ

令和7年11月4日
香川河川国道事務所

いのちとくらしをまもる
防災減災

土器川水系の内水と外水のリスクを統合した多段階浸水想定図と
水害リスクマップを作成しました

香川河川国道事務所では、土器川水系土器川（直轄管理区間）の外水氾濫と、その他河川及び下水道等の内水氾濫を考慮した内外水統合型の多段階浸水想定図と水害リスクマップを作成しました。

この取組は、土地利用や住まい方の工夫及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の更なる推進に資することを目的とするものです。

※多段階浸水想定図とは

- ・高頻度から低頻度で発生する降雨規模毎（年超過確率 1/10、1/30、1/50、1/100 年）に作成した浸水想定図です。

※水害リスクマップとは

- ・多段階浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.0m以上、0.5m（床上浸水相当）以上、3.0m（1階居室浸水相当）以上）に重ね合わせて作成した図面です。

※外水氾濫とは

- ・洪水流が堤防のない場所や堤防を越えて堤防より住居地側へ氾濫することです。

※内水氾濫とは

- ・洪水時に本川の水位が支川より高くなると、本川の水が逆流するのを防ぐために排水門等のゲートを閉めます。このため支川の流水は本川に排水できなくなり堤防より住居地側で氾濫が生じることです。

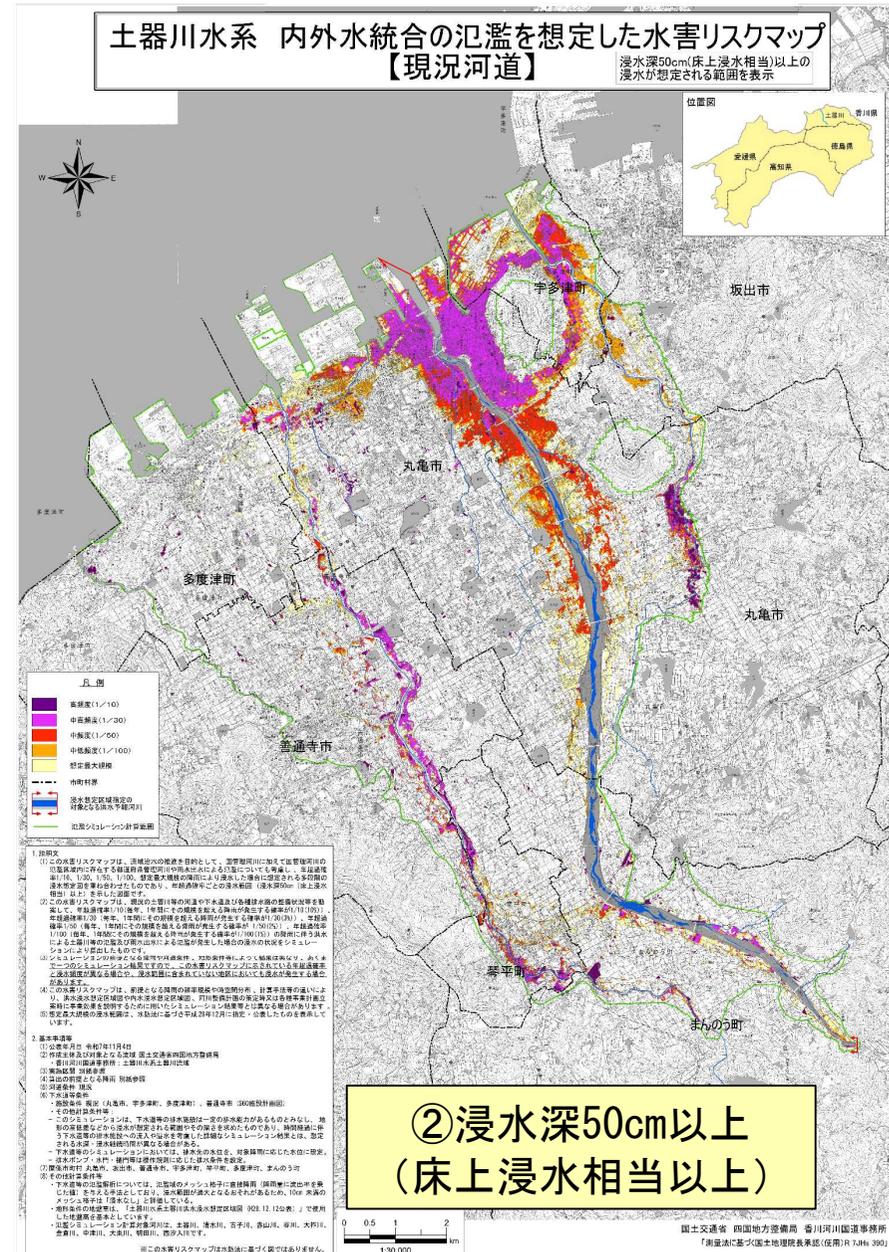
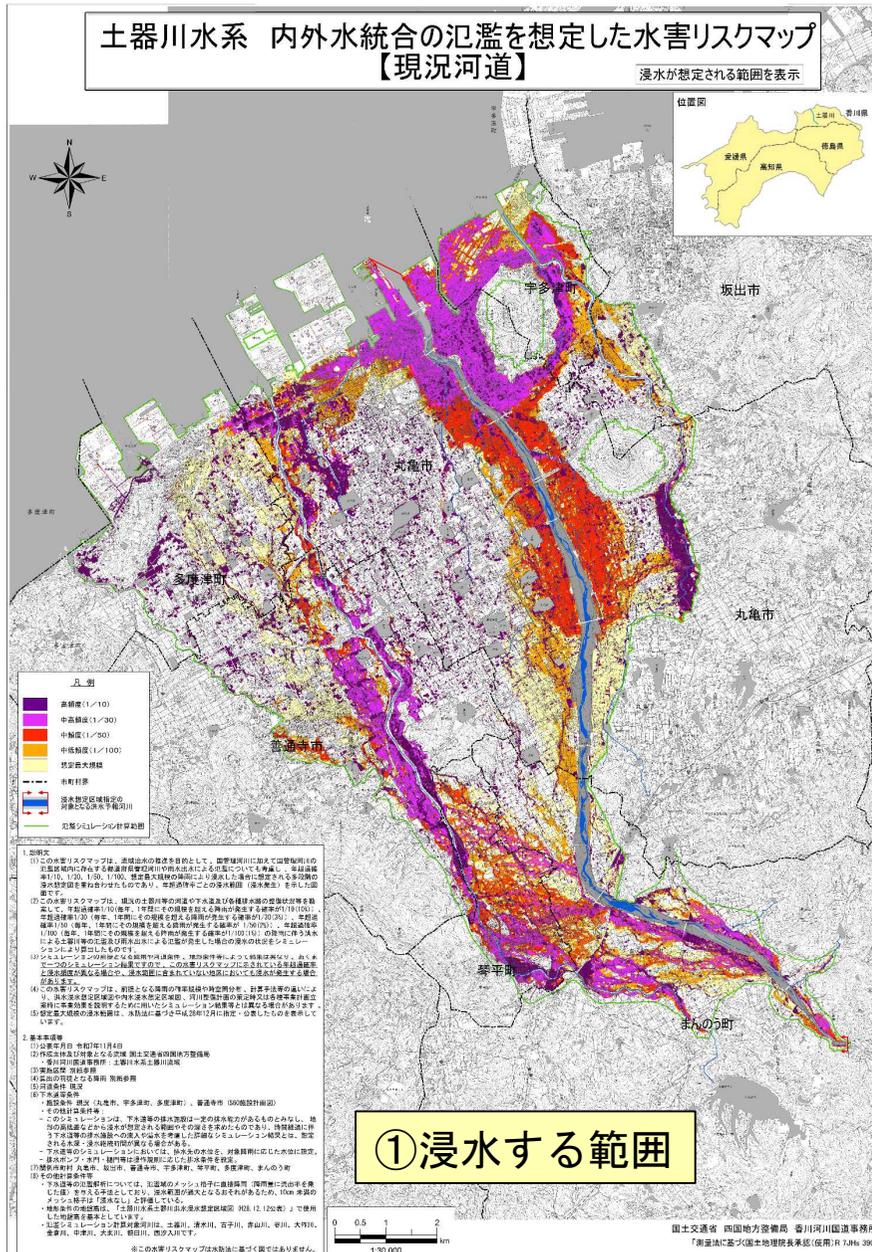
○土器川水系内外水統合型の多段階浸水想定図、水害リスクマップについてはこちらに掲載しております。

URL： <https://www.skr.mlit.go.jp/kagawa/river/tadankai/index.html>

※本施策は、四国圏広域地方計画「No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト」に該当します。

問い合わせ先: 国土交通省 四国地方整備局 香川河川国道事務所
TEL: (087)821-1619
副所長(河川): 新川 和之(しんかわ かずゆき) (内線 204)
○工務第一課長: 長町 剛志(ながまち つよし) (内線 311)
○: 主な問い合わせ先

- 従来の洪水浸水想定区域図やハザードマップは、発生頻度が低い想定される最大規模の水害が発生した場合でも、住民が確実に避難できることを目的に作成されています。そのため、年超過確率1/1,000や1/100の降雨量における堤防決壊による最大の浸水深がシミュレーションにより示されています。
- 一方、**水害リスクマップは、土地利用、防災まちづくり、流域治水の推進などの多様な目的で作成されており、住民の避難においては、年超過確率1/10、1/30、1/50の降雨量など、住民にとってより身近な降雨規模の水害を想定しています。**
- 水害リスクマップの表示方法は、浸水が生じる範囲（浸水深0.0m以上）、床上浸水する範囲（浸水深0.5m以上）、1階が水没する範囲（浸水深3.0m以上）がそれぞれ様々な年超過確率の降雨量によって起こり得るかを塗り分けたマップです。
- 多段階浸水想定図は従来の洪水浸水想定区域図やハザードマップと同じ表示方法で作成したものです。

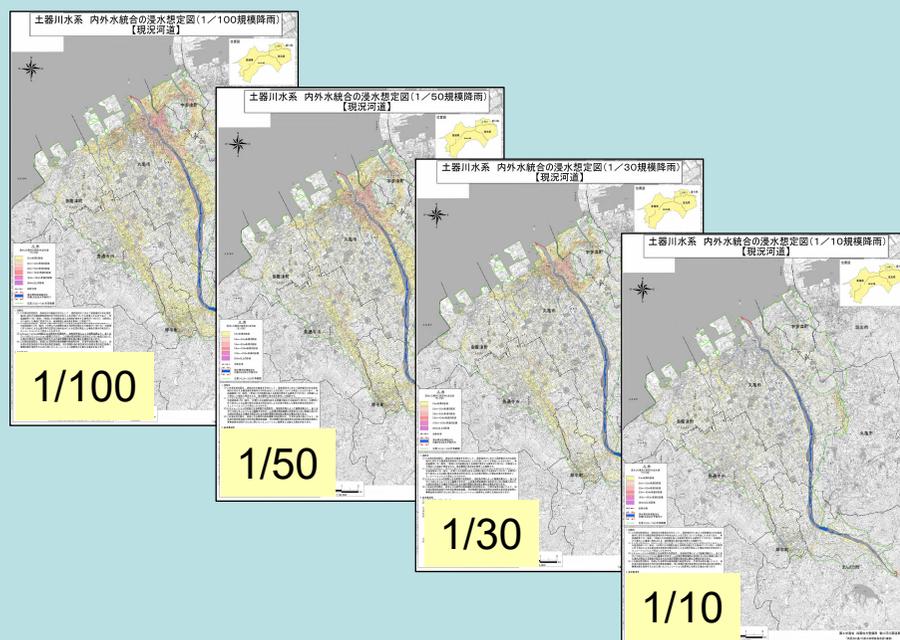


内外水統合の多段階浸水想定図・水害リスクマップ

- 国や都道府県では、これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に活用する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し公表してきました。
- 国土交通省では、これに加えて、**土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択**など、流域治水の取り組みを推進するため、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の降雨規模毎に作成した、土器川の国管理区間からの氾濫と土器川支川や二級河川からの氾濫と下水道等からの内水氾濫を考慮した、浸水想定図（「**多段階の浸水想定図**」）と、それらを重ね合わせて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「**水害リスクマップ**」を作成・公表することとしました。

【内外水統合の多段階浸水想定図】

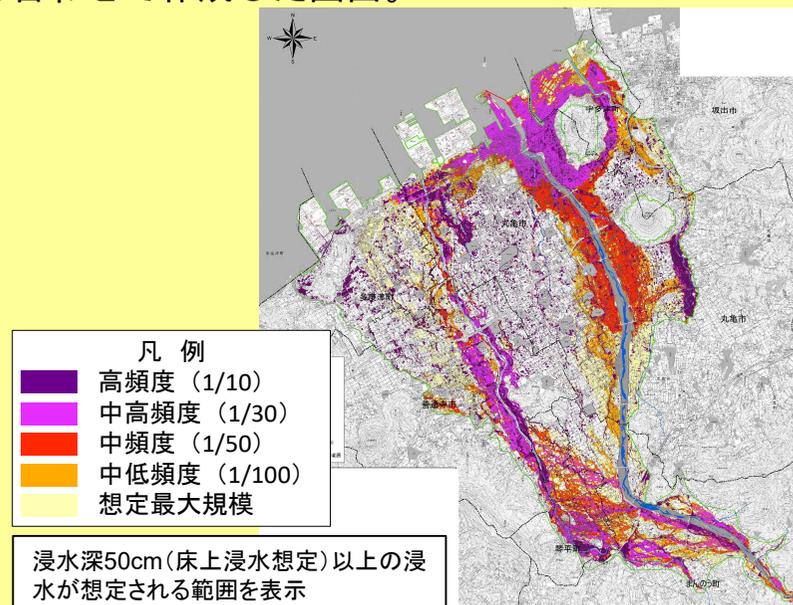
想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模毎（1/10、1/30、1/50、1/100（計画規模））に作成した浸水想定図。



反映

【内外水統合の水害リスクマップ】

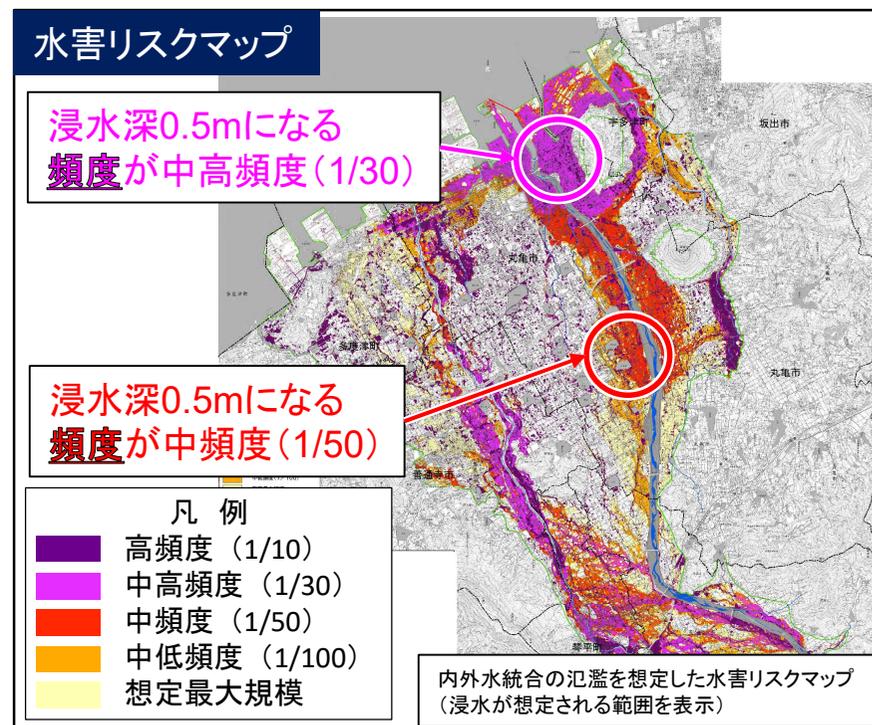
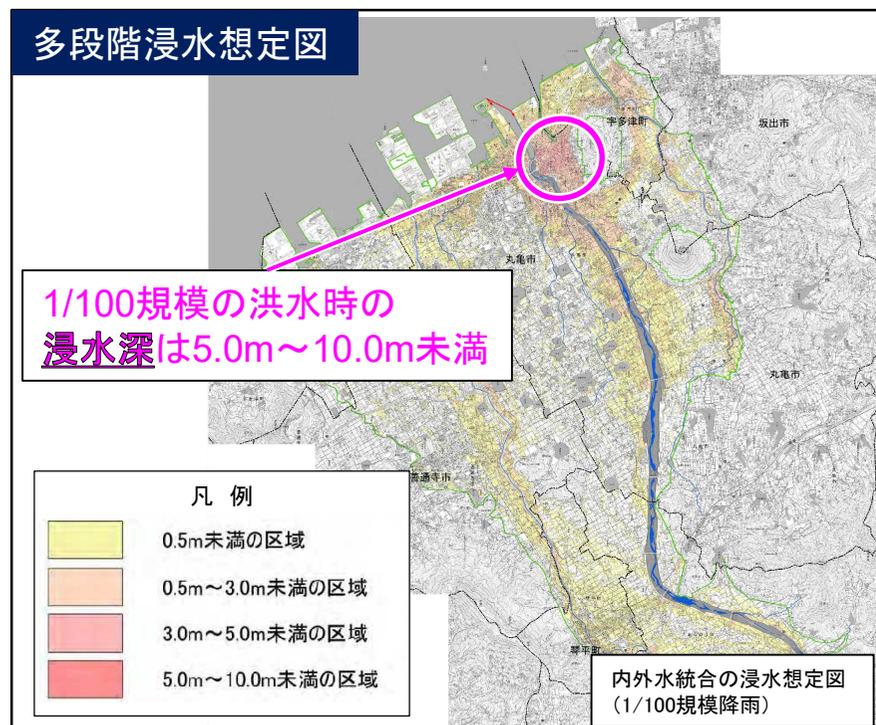
多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.0m以上、0.5m（床上浸水相当）以上、3.0m（1階居室浸水相当）以上）に重ね合わせて作成した図面。



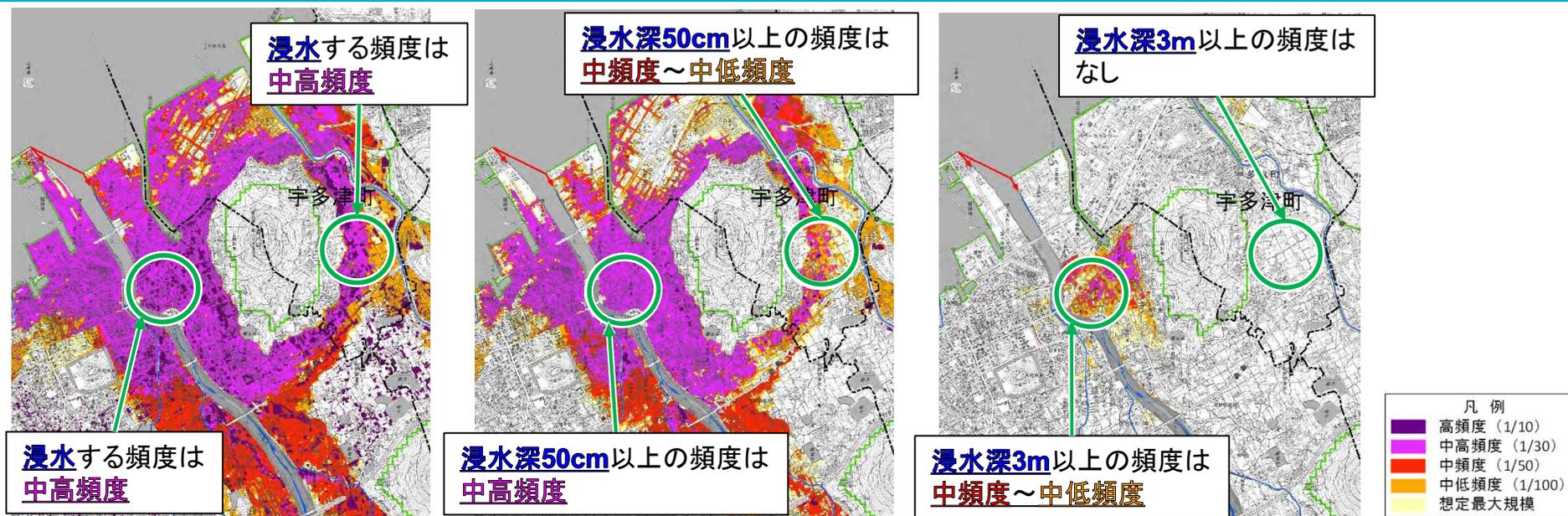
多段階浸水想定図と水害リスクマップの違い

- 多段階浸水想定図は、命を守るという観点から、**避難が必要となる場所と安全な場所を把握**することを目的としています。
- 水害リスクマップは、降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、**中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所が把握**できます。

	多段階浸水想定図	水害リスクマップ (浸水頻度図)
表す情報	浸水範囲、浸水深(m)	浸水範囲、浸水頻度
主な用途	避難行動	防災まちづくり、企業立地選択等
降雨条件	発生頻度の異なる降雨	発生頻度の異なる降雨
河道の時点	現況	現況



水害リスクマップの見方・活用例



①浸水する範囲

②浸水深50cm以上
(床上浸水相当以上)

③浸水深3m以上
(1階居室浸水相当以上)

3つの図を並べて見比べる

【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】

居住スペースや1階をピロティ構造にするなど、建築構造の参考にするなどの活用が考えられます。

【企業立地選択等に利用する場合】

浸水頻度の高い場所への施設の立地を避けるほか、浸水確率を踏まえて事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するといった対策の検討に活用することが考えられます。

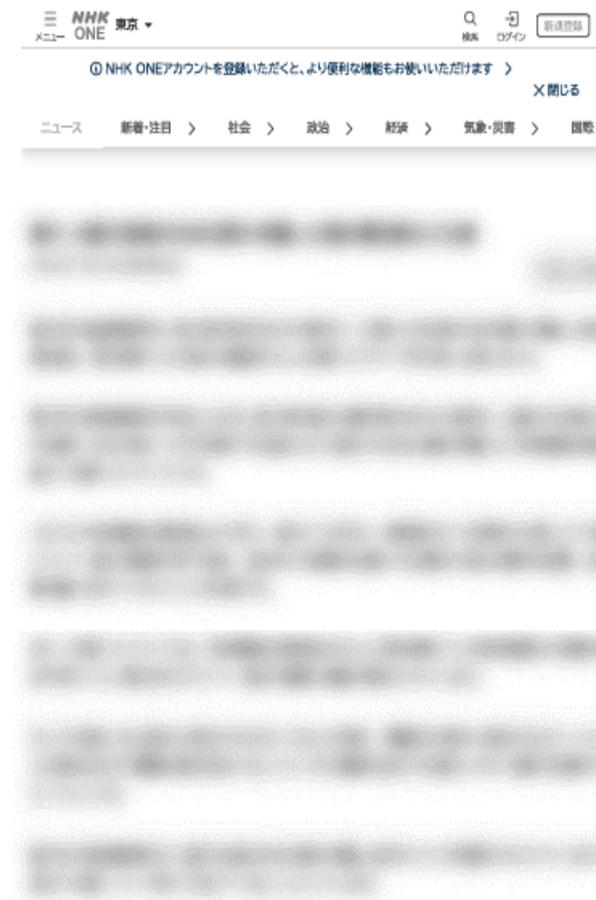
【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】

立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用などが考えられます。

- 令和7年11月4日に記者発表を実施
- 四国新聞 (R7. 11. 15)、NHKニュース (R7. 11. 21)で報道された



四国新聞 (R7.11.15)



NHK (R7.11.21)

- 令和7年11月30日(日)、多度津町白方地区防災訓練が行われた。
- 香川河川国道事務所も参加し、内外水統合の多段階浸水想定図・水害リスクマップの説明、防災AR体験、重ねるハザードマップの使用体験を実施した。



周知活動(丸亀市、その他)

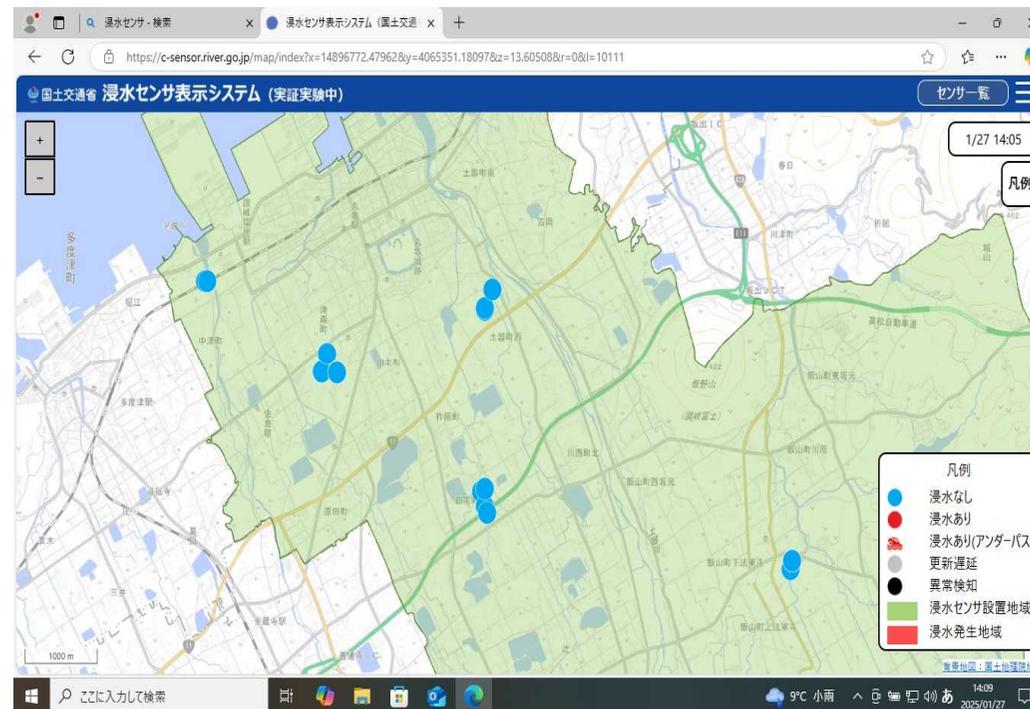
- 丸亀市 土器コミュニティセンターに内外水統合の多段階浸水想定図・水害リスクマップを掲示し、来訪者に見て頂いている。



- 「頻度の高い水害を想定したリスクマップの地区防災計画への活用に関する研修会」（主催：香川県防災士会）が、令和8年3月に計画されており、内外水統合の多段階浸水想定図及び水害リスクマップの説明を行う予定。

- 今後、要望があれば各種勉強会・研修会、子供達を対象にした防災教育の場等で説明していく。

- 香川大学創造工学部と丸亀市が協力し、丸亀市内で過去に浸水実績がある5つの場所に浸水センサーが設置され、リアルタイムに浸水状況を把握する仕組みづくりが検討されている。
- 今後、香川大学とも連携し、浸水センサーによる浸水実績と水害リスクマップ等との比較を行うなど精度の確認等を進めていく。



【浸水センサ表示システム画面】 国土交通省

- 内外水統合の多段階浸水想定図・水害リスクマップについては、今後、下表に示す取り組みの推進を検討
- ご要望等あれば、香川河川国道事務所まで連絡ください。

	分類	内容
“ひと”づくり	講師の育成	防災士などへの講習会
	防災教育	学校教育での利用に向けた教材の検討 (リスクマップを活用したマイ・タイムラインの作成)
	地域住民	リレー防災みらいサロンでの紹介
“まち”づくり	企業活動	企業BCPでの取り組みを検討(モデル的に実施)